



題材名 「あの時の私の気持ち」

第1学年 「A表現」(1)ア(ア), (2)ア(ア), 「B鑑賞」(1)ア(ア), [共通事項](1)アイ

1 題材の目標

(1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、場面や感情などを全体のイメージで捉えることを理解している。([共通事項])
- ・アクリル絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。「A表現」(2))

(2) 「思考力, 判断力, 表現力等」に関する題材の目標

- ・自身の気持ちが強く揺れ動いた一場面を基に主題を生み出し、その場面や感情の関係性などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。「A表現」(1))
- ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。「B鑑賞」(1))

(3) 「学びに向かう力, 人間性等」に関する題材の目標

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

2 題材の評価規準

ポイント① 育成を目指す資質・能力を生徒と共有する

知識・技能 「見つけよう」	思考・判断・表現 「工夫しよう」	主体的に学習に取り組む態度 「楽しもう」
知 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、場面や感情などを全体のイメージで捉えることを理解している。(知識) 技 アクリル絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。(技能)	発 自身の気持ちが強く揺れ動いた一場面を基に主題を生み出し、その場面や感情の関係性などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。(発想・構想) 鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。(鑑賞)	態表 美術の創造活動の喜びを味わい、自身の気持ちが強く揺れ動いた一場面を基に楽しく構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする学習活動に取り組もうとしている。(主体的に表現の学習に取り組む態度) 態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(主体的に鑑賞の学習に取り組む態度)



本事例では、授業のねらいを生徒と共有するために、育成を目指す資質・能力を「キーワード」で示しています。

3 題材について

本題材は、「あの時の私の気持ち」というテーマのもと、自身の気持ちが強く揺れ動いた場面を振り返り、その時の自身の気持ちを絵で表現するものである。中学生の発達段階は、一般的に思春期と呼ばれ、周囲の目が一層気になり始める時期であり、日々出合う様々な出来事に対して気持ちが揺れ動きやすい。この題材を通して自身の中にある気持ちについて、じっくりと見つめるきっかけとしたい。

例えば、強く荒々しい線からは、怒りや悔しさを、細く弱々しく描かれた線からは、悲しさや寂し

さなどの感情を想像することができる。人によって感じ方は様々であるが、一本の線にですら人は気持ちを込めたり、そこに込められた気持ちを感じたりすることができる。制作にはアクリル絵の具を使用する。生徒が試行錯誤する中で、自分の表現したいテーマに合うものを探しながら取り組むことができるように配慮する。

本題材の流れは、人の代表的な感情としてあげられる「喜怒哀楽」4種類の表現方法を試みてから、自分の表現したい気持ちを制作していく。そうすることで、自分の気持ちを捉える時、単に喜びの気持ちというだけではなく、喜びの中にも少し悲しい気持ちも、悔しい気持ちも入っているというように、微妙な気持ちが合わさって今の自分の気持ちを形成していることに気付かせることができる。その自分の微妙な気持ちを捉えられれば、実際の制作の場面においてもより深く考えることができ、広がりのある作品ができるのではないかと考える。

4 題材の計画 (全7時間)

ポイント 3 生徒の資質・能力が最も発揮される場面で見取る

次	時	生徒の活動	観 点			指導上の留意点・評価の方法
			知	思	態	
第一次	1	1. 感情を色や形で表してみる ○色や形を用いることで人の感情を表現できることに気付く。 ・本題材の導入として、喜怒哀楽の4種類の感情を絵で表現する。周囲には秘密にする。	知		表	主体的に学習に取り組む態度は、各資質・能力が発揮される場面で、その資質・能力と一体的に見取ることが重要です。 ・スケッチブックの画用紙に描画させる。 (評価方法) 取組の様子
		交流活動「シェアタイム壺」 ○鑑賞活動を通して、他の人が感情を表現するために工夫した点に気付く。 ・4人グループで互いのカードを鑑賞する。		鑑	鑑	
第二次	5	2. 自分の気持ちから主題を探す ○これまでに自身が体験した出来事を振り返り、特に自分の気持ちが揺れ動いた場面を選び、その時の自分の感情を絵に表現する。 ・WS②に取り組み、表現したい場面とその時の気持ちはどのようなものであるかを考える。		発		・WS②「あの時の私の気持ち」使用 ・表現したい場面とその時の気持ちがなぜこのような形になったのかを自分なりに分析させる。 (評価方法) 取組の様子
		3. 本制作 ○様々な材料を用い、テーマに合わせて試行錯誤する。感情を絵で表現する。	技		表	・制作する際の用紙は、スケッチブック(F6)の紙の中から1枚を使用する。 (評価方法) 取組の様子

		<p>4. 交流活動「シェアタイム式」</p> <p>○様々な発想にふれることで、再度自分自身の取組や作品について振り返り、今後の制作に生かす。</p> <p>・発表会を通して、他の人の作品を鑑賞し、互いにコメントを渡し合う。</p>		鑑		<p>・WS③「シェアタイム式」使用</p> <p>・4人グループで自分の作品について発表させる。</p> <p>(評価方法) 交流活動の様子</p>
		<p>5～6. 本制作続き</p> <p>○様々な材料を用いて、テーマに合わせて試行錯誤しながら制作に取り組む。</p> <p>・交流を通して得たことを参考にしながら、新たな視点から自分の作品を見つめ、再度制作に取り組む。</p>	技		表	<p>(評価方法) 取組の様子, 作品</p>
第三次	1	<p>7. 鑑賞会</p> <p>○他者の作品を鑑賞し、その作品のよさやおもしろさを感じる。</p> <p>・完成した作品を持ち寄り、鑑賞会を行う。</p>	知		鑑	<p>・その人の作品を鑑賞して感じたことや考えたことなどを付箋に書かせ、相手に渡すように指示する。</p> <p>(評価方法) 鑑賞の態度</p>

※題材全体を通して意識すること⇒ **ポイント 2 生徒のよさや可能性を見つけ、積極的に伝える**

感性や情操などの「人間性」に関わる部分は、観点別学習状況の評価には含まれませんが、声かけなどで生徒に伝えていくことが大切です。

5 本時の授業（1時間目）

時間	生徒の活動	指導上の留意点
導入 5分	<p>○折り紙から受ける「感じ」を考える。</p> <p>○授業の中で、意識して使う力を確認する。</p> <p>・見つけよう（知識・技能）</p> <p>・工夫しよう（思考・判断・表現）</p> <p>・楽しもう（主体的学習に取り組む態度）</p> <p>○本時の目標を確認する。</p>	<p>・折り紙から「どんな感じ」を受けるか問い、本時の表現で意図する「感じ」をつくることを理解させる。</p> <p>・本時の具体的な目標を黒板に掲示する。</p>
	<p>【本時の目標】</p> <p>「形や色彩を工夫することで『感情』を表現できるのか、試してみよう」</p>	
	<p>○本題材の内容を確認する。</p> <p>○本時の内容を確認する。</p>	<p>・「あの時の気持ち」というテーマに、自身の体験した出来事から発想して、その時の気持ちを絵に表現していくことを伝える。</p> <p>・絵の具を使って、画用紙に「喜怒哀楽」を1種類ずつ表現することを伝える。</p>

<p>展開</p> <p>40分</p>	<p>○感情を色や形で表すことができるか、試してみる。(30分)</p>  <p>○クイズを出し合いながら鑑賞する。「シェアタイム壺」(10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・制作している間、どれがどの感情かは周囲に秘密にさせておく。 ・「喜」と「楽」の違いは何だろうか、という問いをもった生徒を見つけ、全体にシェアする。体の動きで表現させたり、言葉を使う場面の差を考えさせたりする。 ・早く制作し終えた生徒には、「喜怒哀楽」以外の感情をピックアップして表現してよいことを伝える。 ・記号で表現しようとする生徒には、「美術の力を使って表現できるといいね」という声かけをする。 ・4人グループになって、どのカードがどの感情かをクイズを出しながら鑑賞していく。その根拠を示しながらやり取りできるようにさせる。 ・鑑賞する際には、他者理解に努めるよう伝える。
<p>終末</p> <p>5分</p>	<p>○OWSに感想を記入・発表する。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数人を指名して、感想を発表させる。

6 まとめ

本題材を通して、美術科の見方・考え方を生徒と共有することができるのではないかと感じる。関連した内容で、小学校の教育課程にも感情を絵で表現する内容が含まれている。小学校と中学校で互いの教育課程の内容を理解していれば、中学校ではより発展的な活動に踏み込むことができる。「喜怒哀楽」以外にも、その他の感情(例えば、幸せや爽やか、退屈、寂しい、など)を表現したり、様々な感情が入り混じっている様子を表現したりするなどの授業内容が考えられる。



授業改善のポイントを、 **ポイント1** **ポイント2** **ポイント3** で示しています。各ポイントの詳細は、**教育課程指導資料(冊子または、Web サイト)**をご覧ください。

Web サイトの QR コード

